

# 2014 (平成26)年紙・板紙内需試算報告

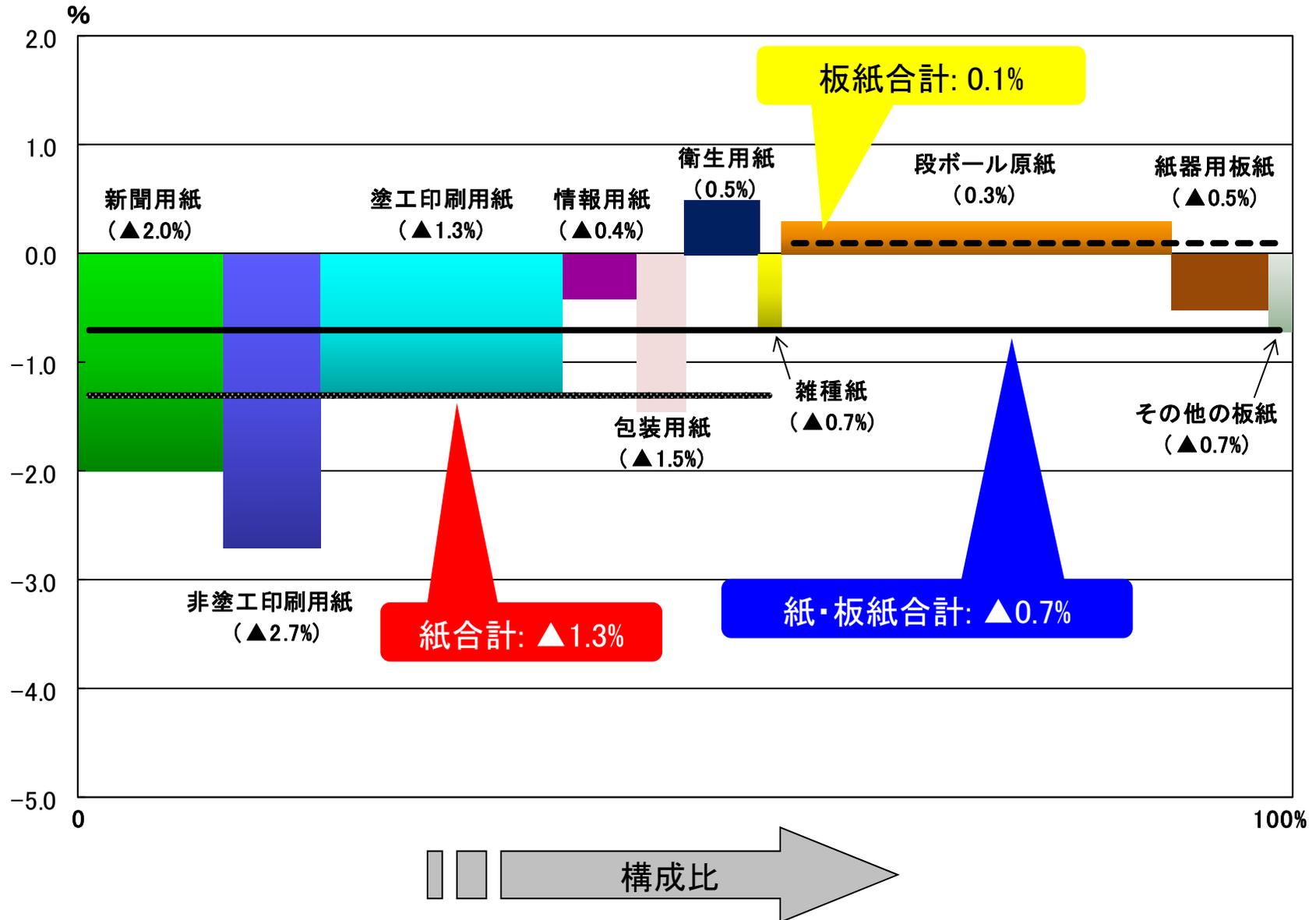
平成26年1月20日

日本製紙連合会

# 内 容

- I . 2014(平成26)年 紙・板紙内需試算(総括)…P3～5
- II . 2014(平成26)年 品種別内需試算…P6～23
- III . 2013年 紙・板紙内需実績見込み…P24
- IV . 参考…P25～26

# I. 2014 (平成26)年紙・板紙内需試算 ①成長率と構成比



## ② 2014 (平成26)年紙・板紙内需試算(実績推移及び見通し)

(単位:千トン、%:対前年増減率)

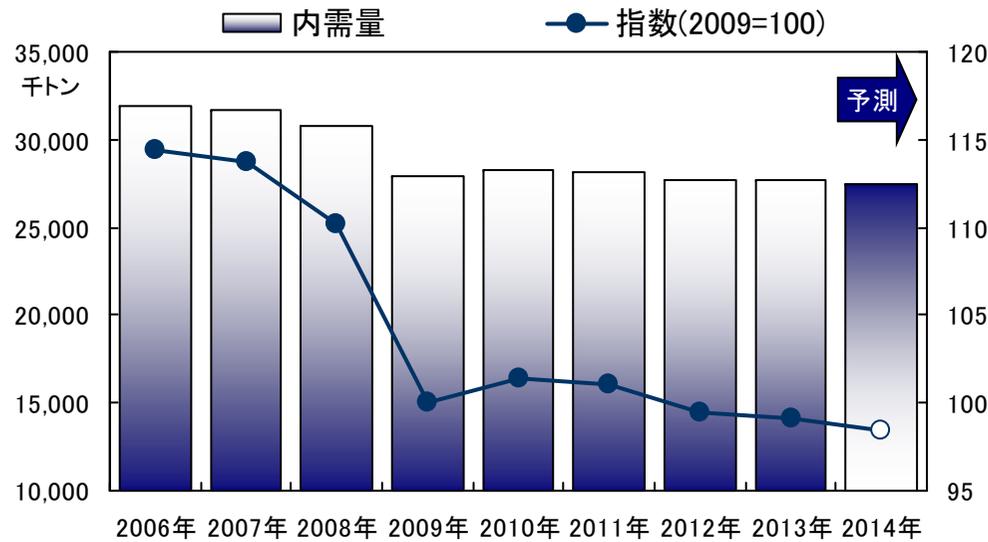
品 種	2006年		2007年		2008年		2009年		2010年		2011年		2012年		2013年見込み		2014年見通し		
	数量	増減率																	
紙	新聞用紙	3,764	0.1	3,716	▲ 1.3	3,632	▲ 2.3	3,414	▲ 6.0	3,349	▲ 1.9	3,245	▲ 3.1	3,305	1.8	3,245	▲ 1.8	3,180	▲ 2.0
	非塗工印刷用紙	3,097	▲ 1.4	3,053	▲ 1.4	2,830	▲ 7.3	2,583	▲ 8.7	2,493	▲ 3.5	2,428	▲ 2.6	2,350	▲ 3.2	2,299	▲ 2.2	2,237	▲ 2.7
	塗工印刷用紙	6,954	1.1	6,817	▲ 2.0	6,512	▲ 4.5	5,694	▲ 12.6	5,570	▲ 2.2	5,602	0.6	5,476	▲ 2.3	5,417	▲ 1.1	5,347	▲ 1.3
	情報用紙	1,992	0.8	2,005	0.7	2,010	0.2	1,847	▲ 8.1	1,886	2.1	1,853	▲ 1.8	1,849	▲ 0.2	1,835	▲ 0.8	1,827	▲ 0.4
	印刷・情報用紙計	12,042	0.4	11,876	▲ 1.4	11,352	▲ 4.4	10,123	▲ 10.8	9,949	▲ 1.7	9,883	▲ 0.7	9,676	▲ 2.1	9,551	▲ 1.3	9,411	▲ 1.5
	未ざらし包装紙	604	1.0	612	1.3	588	▲ 3.9	491	▲ 16.5	552	12.6	534	▲ 3.4	500	▲ 6.4	491	▲ 1.6	485	▲ 1.2
	ざらし包装紙	362	2.2	368	1.9	354	▲ 3.8	290	▲ 18.0	300	3.3	291	▲ 2.8	277	▲ 5.1	269	▲ 2.6	265	▲ 1.8
	包装用紙計	966	1.5	981	1.6	942	▲ 3.9	781	▲ 17.1	852	9.1	825	▲ 3.2	776	▲ 6.0	761	▲ 2.0	750	▲ 1.5
	衛生用紙	1,833	1.3	1,820	▲ 0.7	1,832	0.6	1,836	0.2	1,856	1.1	1,873	0.9	1,880	0.4	1,892	0.7	1,902	0.5
	雑種紙	852	3.1	872	2.4	822	▲ 5.8	713	▲ 13.2	797	11.8	768	▲ 3.7	744	▲ 3.2	723	▲ 2.7	718	▲ 0.7
	<b>紙 計</b>	<b>19,457</b>	<b>0.6</b>	<b>19,264</b>	<b>▲ 1.0</b>	<b>18,579</b>	<b>▲ 3.6</b>	<b>16,867</b>	<b>▲ 9.2</b>	<b>16,804</b>	<b>▲ 0.4</b>	<b>16,595</b>	<b>▲ 1.2</b>	<b>16,380</b>	<b>▲ 1.3</b>	<b>16,173</b>	<b>▲ 1.3</b>	<b>15,961</b>	<b>▲ 1.3</b>
板	ライナー	5,621	0.1	5,621	0.0	5,485	▲ 2.4	5,024	▲ 8.4	5,232	4.1	5,285	1.1	5,207	▲ 1.5	5,264	1.1	5,280	0.3
	中しん原紙	3,761	0.9	3,776	0.4	3,697	▲ 2.1	3,372	▲ 8.8	3,496	3.7	3,515	0.6	3,477	▲ 1.1	3,501	0.7	3,512	0.3
	段ボール原紙計	9,381	0.4	9,397	0.2	9,182	▲ 2.3	8,397	▲ 8.6	8,728	3.9	8,800	0.9	8,684	▲ 1.3	8,765	0.9	8,792	0.3
	白板紙	2,031	0.1	2,006	▲ 1.3	2,038	1.6	1,886	▲ 7.4	1,939	2.8	1,975	1.9	1,888	▲ 4.4	1,908	1.1	1,899	▲ 0.5
	黄チップ・色板	205	▲ 0.5	192	▲ 6.4	182	▲ 5.0	151	▲ 17.1	155	2.8	155	▲ 0.0	143	▲ 7.7	145	1.1	144	▲ 0.6
	紙器用板紙計	2,237	0.0	2,198	▲ 1.7	2,220	1.0	2,037	▲ 8.2	2,094	2.8	2,130	1.7	2,031	▲ 4.7	2,053	1.1	2,043	▲ 0.5
	その他の板紙	867	1.0	867	▲ 0.0	776	▲ 10.5	612	▲ 21.1	667	9.0	672	0.6	651	▲ 3.1	668	2.5	663	▲ 0.7
	<b>板 紙 計</b>	<b>12,485</b>	<b>0.4</b>	<b>12,461</b>	<b>▲ 0.2</b>	<b>12,177</b>	<b>▲ 2.3</b>	<b>11,046</b>	<b>▲ 9.3</b>	<b>11,489</b>	<b>4.0</b>	<b>11,602</b>	<b>1.1</b>	<b>11,366</b>	<b>▲ 2.0</b>	<b>11,486</b>	<b>1.1</b>	<b>11,497</b>	<b>0.1</b>
<b>紙・板紙計</b>	<b>31,942</b>	<b>0.5</b>	<b>31,725</b>	<b>▲ 0.7</b>	<b>30,756</b>	<b>▲ 3.1</b>	<b>27,913</b>	<b>▲ 9.2</b>	<b>28,293</b>	<b>1.4</b>	<b>28,197</b>	<b>▲ 0.3</b>	<b>27,746</b>	<b>▲ 1.6</b>	<b>27,659</b>	<b>▲ 0.3</b>	<b>27,458</b>	<b>▲ 0.7</b>	

注) 千トン未満を四捨五入しているため、合計と積み上げた数量の計とは合わない場合がある。なお、対前年増減率はトンベースによる。

### ③ 2014 (平成26)年紙・板紙内需試算増減要因

プラス要因	マイナス要因
<p>①景気回復(実質GDPのプラス予想／企業業績の改善)</p> <p>②復興需要の継続</p> <p>③消費増税前の駆け込み需要</p> <p>④2020年東京五輪の開催に向けたインフラ関連需要</p> <p>⑤イベント開催            ■ロシア・ソチ五輪開催(2月)            ■FIFAワールドカップ ブラジル大会開幕(6～7月)            —主に新聞用紙、印刷・情報用紙に影響</p> <p>⑥レジャー・旅行需要は堅調            ・旅行者数(国内、海外、訪日外国人)の増加            —主に印刷・情報用紙に影響</p> <p>⑦内食化の継続            —主に段ボール原紙・白板紙に影響</p> <p>⑧医薬・健康関連市場の増加</p> <p>⑨コンビニやドラッグストアの出店増</p> <p>⑩ネット通販等の拡大</p>	<p>①消費増税による駆け込み需要の反動減</p> <p>②消費増税による消費マインドの冷え込み(全般的な節約の動き)</p> <p>③消費増税、原燃料高に伴い需要家の用紙関連コストの節減が加速            ・チラシ・カタログ・パンフレット類、取扱説明書等の廃止/            部数削減/サイズ縮小            ・電子媒体への移行            ・軽量品、低グレード品へのシフト            ・包装資材の他素材へのシフトや省包装化</p> <p>④構造的要因の定着            ■人口減／少子高齢化</p> <p>■紙の出版物の減少            —主に印刷・情報用紙に影響</p> <p>■広告の紙離れ(ネット媒体の増加)            —主に新聞用紙、印刷・情報用紙に影響</p>

## Ⅱ. 2014(平成26)年品種別内需試算：(1) 紙・板紙合計

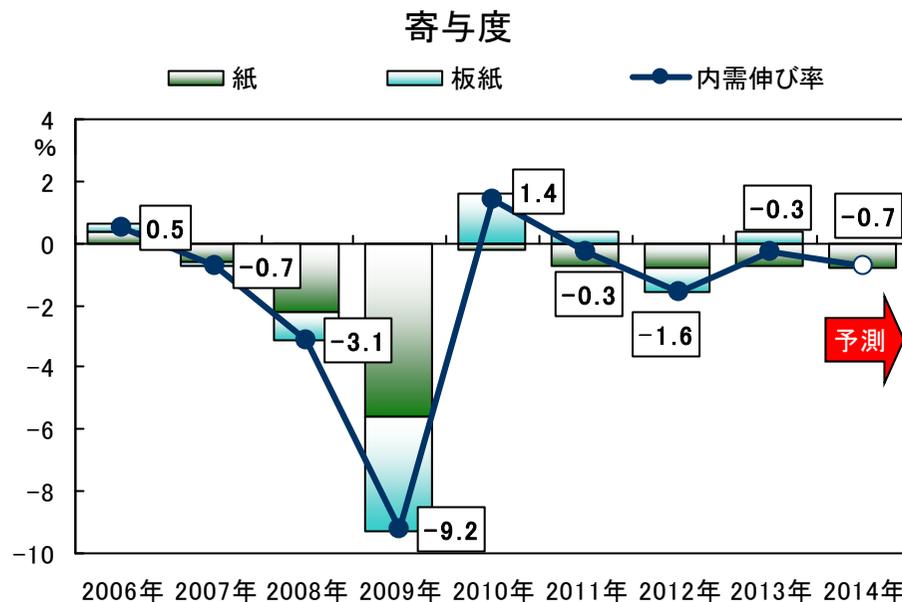


### 「近年の動向」

★紙・板紙の内需はリーマン・ショック後の2009年に大きく数量を落とし、2010年は大きな反動もなく微増にとどまった。2011年以降はマイナス成長が続き、2013年はアベノミクス効果等により主力の段ボール原紙を中心に板紙は増加したが、紙は減少、全体では微減となり、3年連続のマイナスとなった。サプライ別には、国内出荷は3年ぶりに増加し、輸入は5年ぶりに減少した(25頁参照)。

### 「2014年予測」

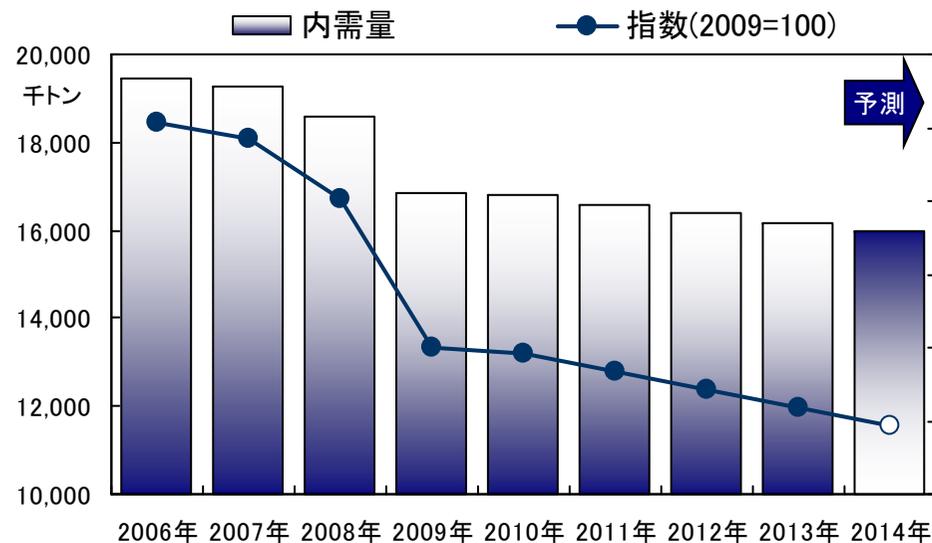
☆2014年の景気は消費増税による腰折れが懸念されるが、5.5兆円規模の経済対策や、米国経済の回復等による輸出環境の改善などから、実質GDPは3年連続のプラス成長が見込まれる。こうした経済環境の下、紙・板紙の内需は、紙は広告費の抑制や電子媒体へのシフトが継続し減少、他方、板紙は食品分野を中心に2年連続の増加を見込む。紙・板紙全体では前年を僅かに下回ると予測した。



☆紙・板紙合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は2,746万トン、前年に対して0.7%減、約20万トンの減少となる。マイナス成長は4年連続。過去の実績値と比較すると、リーマン・ショック後では、2009年(2,791万トン)に対し98.4%、約45万トンの減少となる。

☆紙・板紙別寄与度について、紙は0.8pt減、板紙は0.1pt増と、紙のマイナスが全体を押し下げる見込みである。

## (2) 紙合計

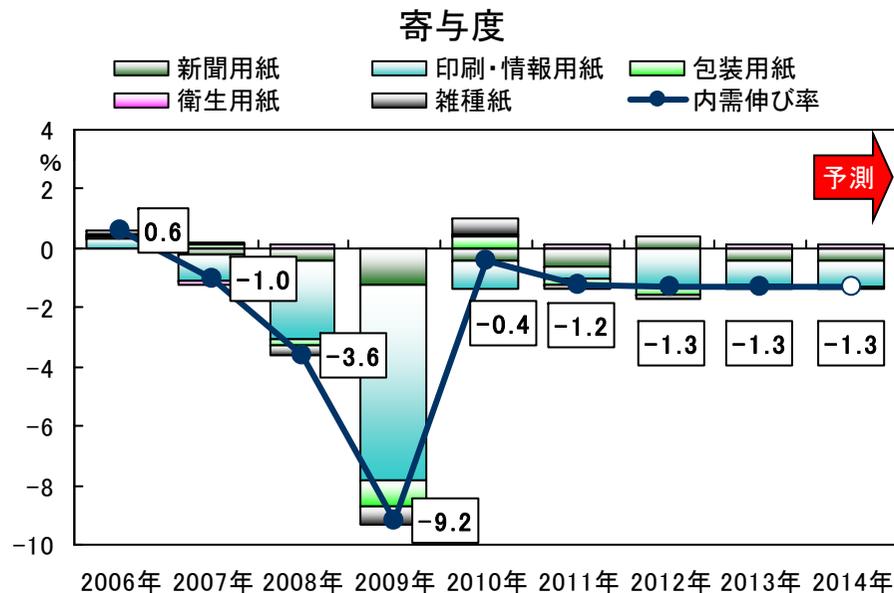


### 「近年の動向」

★紙の内需は2006年をピークに減少しており、特に2009年はリーマン・ショックの影響から大きく数量を落とした。2010年以降は微減で推移し、2013年は衛生用紙のみプラス、その他の品種は全てマイナスとなり、全体では1.3%減と7年連続のマイナスとなった。サプライ別には、国内出荷は印刷・情報用紙の増加が寄与し3年ぶりのプラス、輸入は円高是正に伴い前年を大きく下回った。流通在庫は増加した(25頁参照)。

### 「2014年予測」

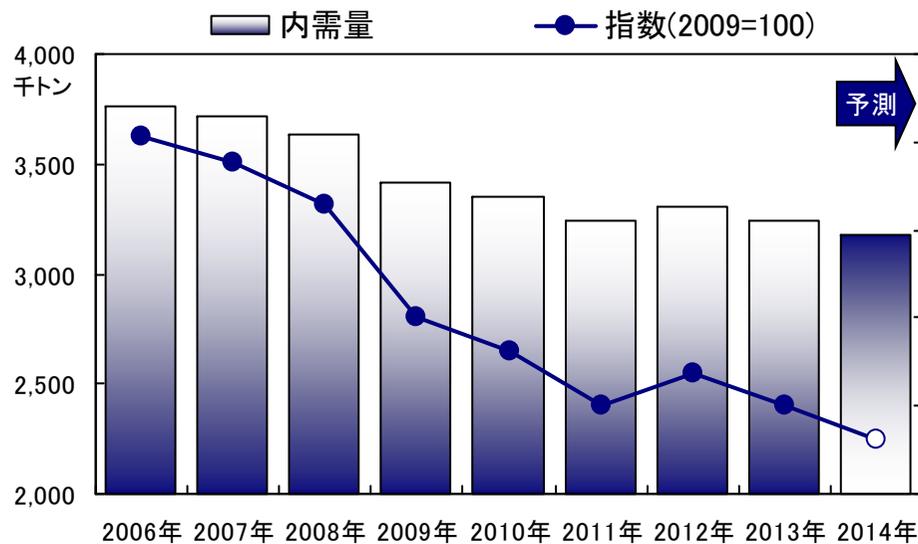
☆主要品種について、衛生用紙は微増を予測したが、新聞用紙、印刷・情報用紙、包装用紙はユーザーの節約志向に加え、他媒体へのシフトといった構造的マイナス要因等により減少し、全体ではマイナスと予測した。



☆紙合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は1,596万トン、前年に対して1.3%減、約21万トンの減少となる。マイナス成長は8年連続。過去の実績値と比較すると、リーマン・ショック後では、2009年(1,687万トン)に対し94.6%、約91万トンの減少となる。

☆品種別寄与度について、新聞用紙は0.4pt減、印刷・情報用紙は0.9pt減、包装用紙は0.1pt減、衛生用紙は0.1pt増の見込みである。

### (3) 新聞用紙



#### 「近年の動向」

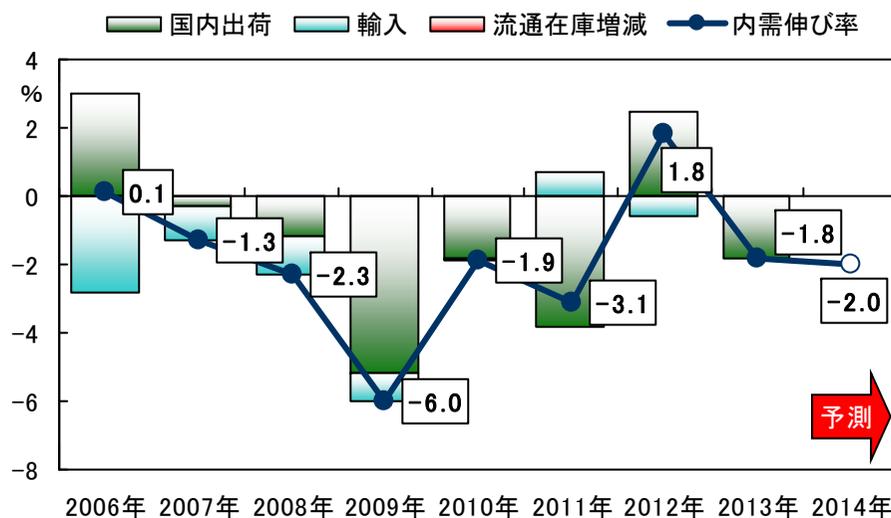
★新聞用紙の内需は、情報収集手段の多様化に伴い若年層を中心に新聞離れが進んでいることや、広告主のマス媒体からネット等へのシフトといった構造的要因により、減少傾向が続いている。2012年は、うるう年のため発行日数が1日多かったことなどにより、6年ぶりにプラスとなったが、2013年は再びマイナスに転じている。

#### 「2014年予測」

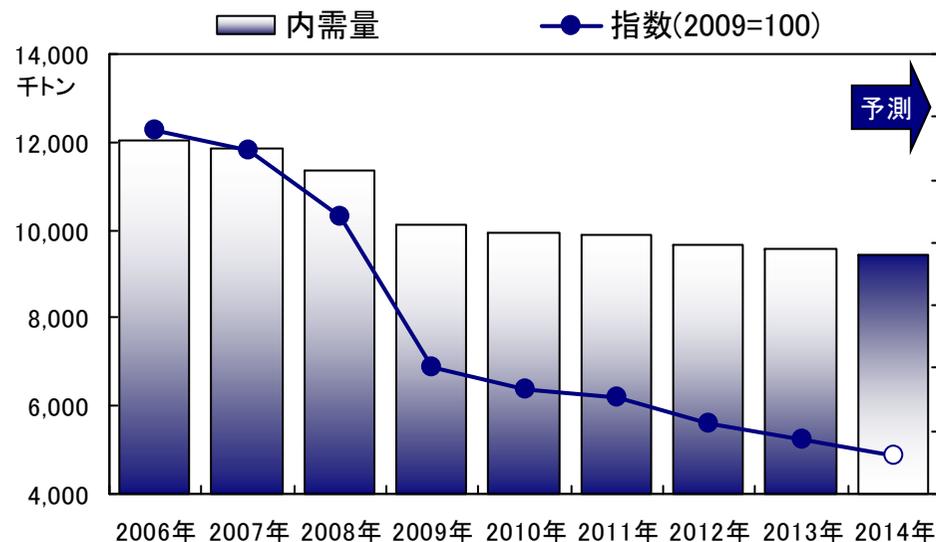
☆新聞用紙の内需は、基本的に発行部数と頁数の増減によって決まる。うち、頁数については、基調として広告の他媒体へシフトは続くものの、頁数自体は大きな変動はないと考えられる。発行部数は、4月の消費増税により、従来よりも減少ペースが加速することが懸念されるものの、急激な減少はないと予想する。スポット需要としては、2月のソチ五輪や6月から7月にかけてのFIFAワールドカップが需要の押し上げ要因となる。

☆以上を勘案し、新聞用紙の内需は前年に対し2.0%の減少と予測した。

#### 寄与度



## (4) 印刷・情報用紙

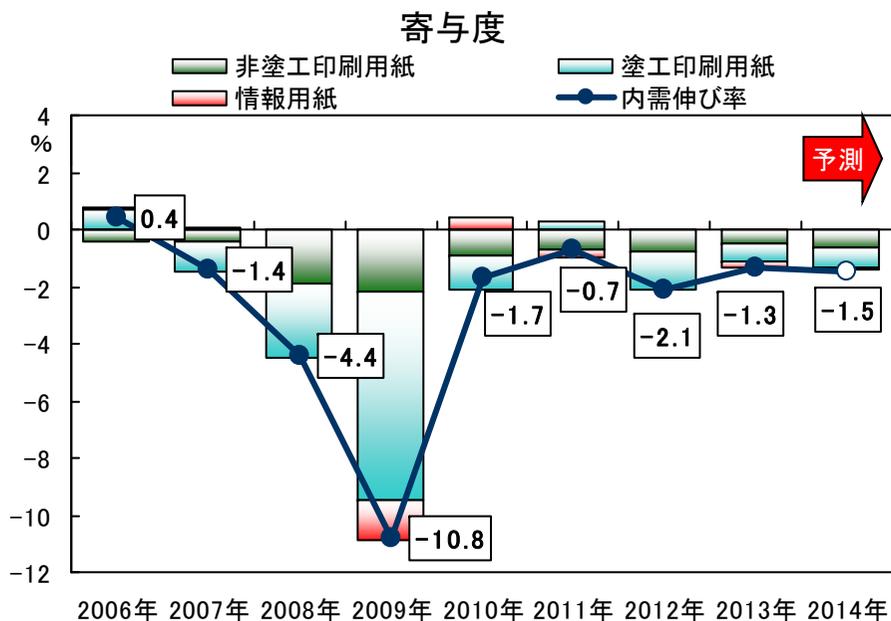


### 「近年の動向」

★印刷・情報用紙の内需は、2006年をピークに縮小している。特にリーマン・ショック後の2009年には、大きく数量を落としている。2013年も減少に歯止めがかかるには至らなかった。主要品種は、情報用紙はほぼ横ばいも、印刷用紙(非塗工、塗工)が減少し、全体では7年連続の減少となった。サプライ別には、国内出荷は、円高是正による輸入紙からの振替需要もあり、3年ぶりに前年を上回ったが、輸入は塗工紙を中心に3年ぶりに減少した。輸入比率は、3.2pt減少の14.8%に低下した。

### 「2014年予測」

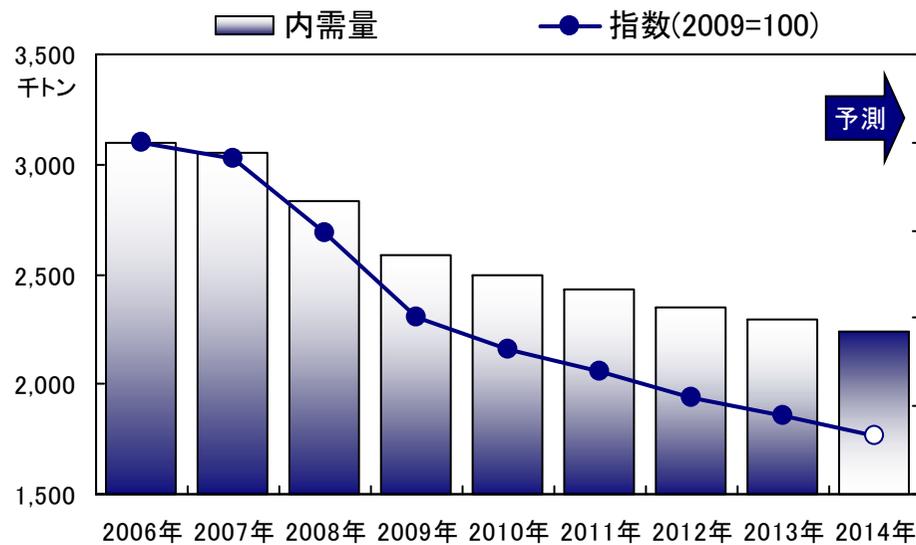
☆印刷・情報用紙の合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は941万トン、前年に対し1.5%減、約14万トンの減少となる。マイナス成長は8年連続であり、5年連続で1,000万トンを下回る見込みである。



☆品種別寄与度について、非塗工印刷用紙は0.6pt減、塗工印刷用紙は0.7pt減、情報用紙は0.1pt減と、印刷用紙を中心にいずれもマイナスの見込みである。

☆詳細については当該品種頁参照。

## (4)-① 非塗工印刷用紙



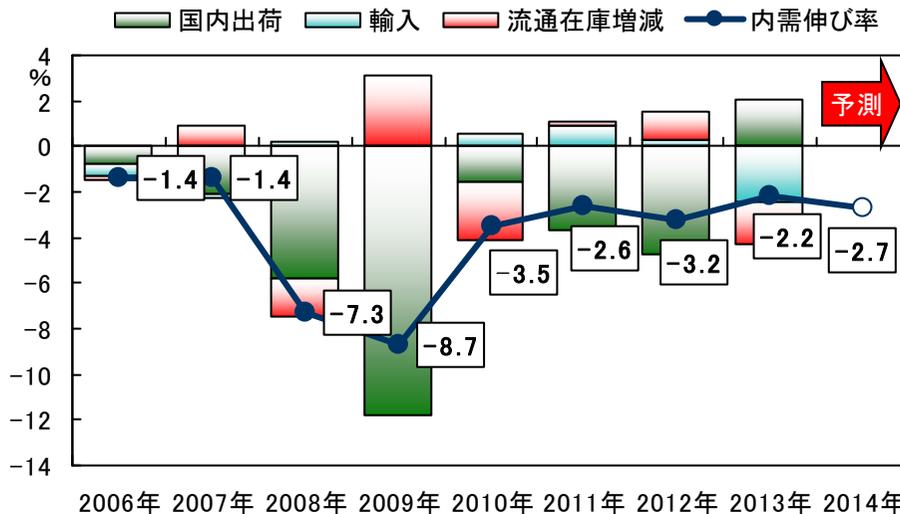
### 「近年の動向」

★印刷・情報用紙のうち、非塗工印刷用紙の内需は、長引く出版不況の影響等により中・下級印刷紙を中心に減少を続けている。昨年(2013年)は、上級印刷紙はプラスに転じたものの、全体では長期低落傾向に歯止めはかからず、9年連続で前年を下回った。サプライ別にみると、国内出荷は上級印刷紙を中心に9年ぶりの増加、他方、輸入は4年ぶりの減少となった。

### 「2014年予測」

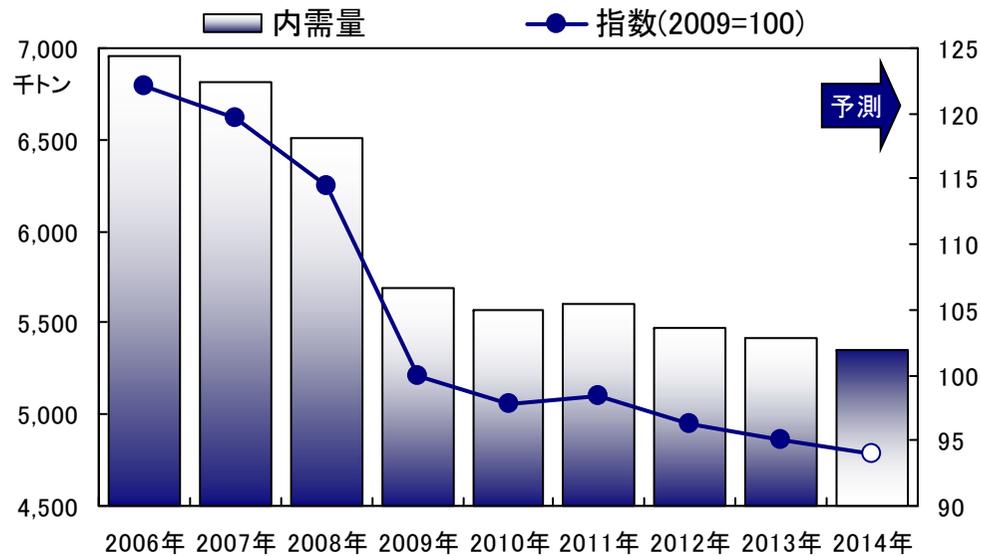
☆全体としては、消費増税に伴い、年前半を中心に駆け込み需要や反動減の動きは想定されるものの、年間を均せば影響は軽微と予想する。品種別について、①上級印刷用紙は、小口印刷物の内製化によるPPC用紙へのシフトやICT化に伴う帳票類等の減少傾向は続くものの、汎用性の高さ等からチラシや目論見書・取扱説明書など用途は広範囲に及び、全体としては底堅く推移すると見られる。他方、②中・下級印刷紙は、既存の出版市場の縮小(書籍は微減程度、雑誌は不振続く)を主因に、スマートフォンやタブレット端末など電子媒体の普及による情報源、娯楽の多様化もあり、前年を下回るものと見られる。

### 寄与度



☆以上を勘案し、非塗工印刷用紙の内需は前年に対し2.7%の減少と予測した。

## (4)-② 塗工印刷用紙



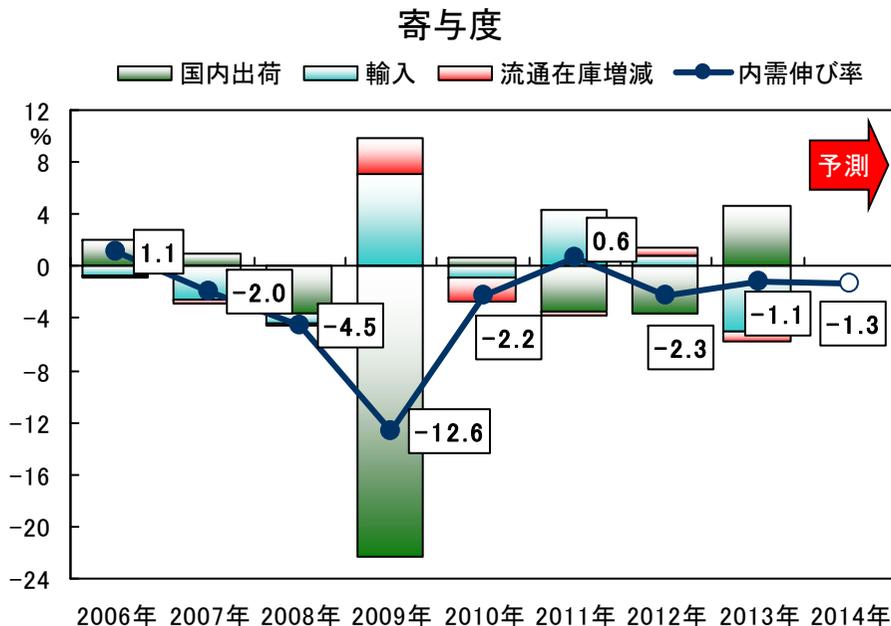
### 「近年の動向」

★印刷・情報用紙のうち、塗工印刷用紙の内需は、リーマン・ショック後の2009年に大きく減少し、その後も縮小傾向にある。昨年(2013年)は、一部に消費増税を見据えた動きも見られたが、他方で版型の縮小やICT化等の影響もあり、商業印刷向けを中心に主要品種は前年を下回った。サプライ別には、国内出荷は円高が是正されたことによる輸入紙からの振替需要もあり3年ぶりに前年を上回った。他方、輸入は年前半を中心に大幅に減少し、3年ぶりに前年を下回った。輸入比率も4.9pt減少の13.0%まで低下した。

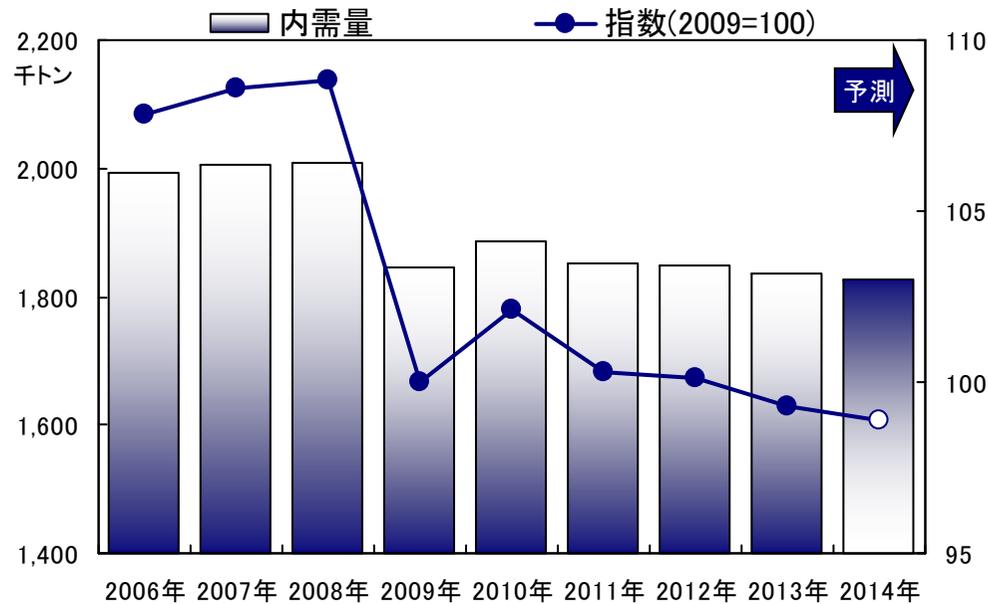
### 「2014年予測」

☆全体としては、消費増税に伴い、年前半を中心に駆け込み需要や反動減の動きは想定されるものの、年間を均せば影響は軽微と予想する。景気は底堅く推移すると見込まれるものの、企業の継続的なコストダウンにより、広告宣伝費等の抑制傾向は続くものと見られる。また、ICT化に伴う電子チラシ、ネット広告等、他の広告媒体へのシフトやグレードダウンなども予想される。

☆以上を勘案し、塗工印刷用紙の内需は前年に対し1.3%の減少と予測した。主力品種は上質コート、軽量コート、微塗工紙、いずれも前年を下回ると見た。



## (4) - ③ 情報用紙



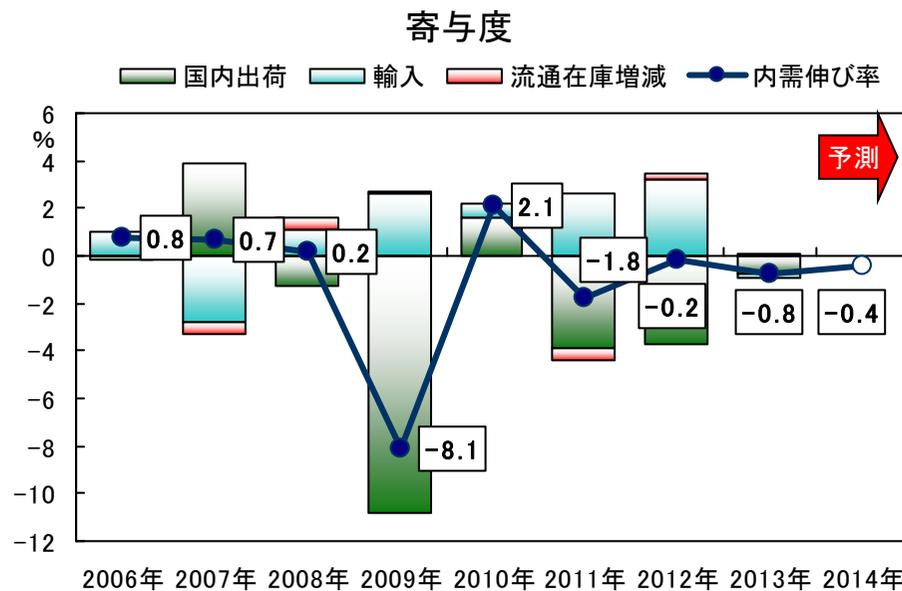
### 「近年の動向」

★情報用紙の内需は、2009年に大幅に減少した後、2010年は反動増や国勢調査に伴うスポット需要等から増加に転じた。その後は、2011年から2013年まで、3年連続で前年割れとなっている。品種別では、PPC用紙が堅調に推移しているのを除き、ほとんどの品種がマイナス基調となっている。

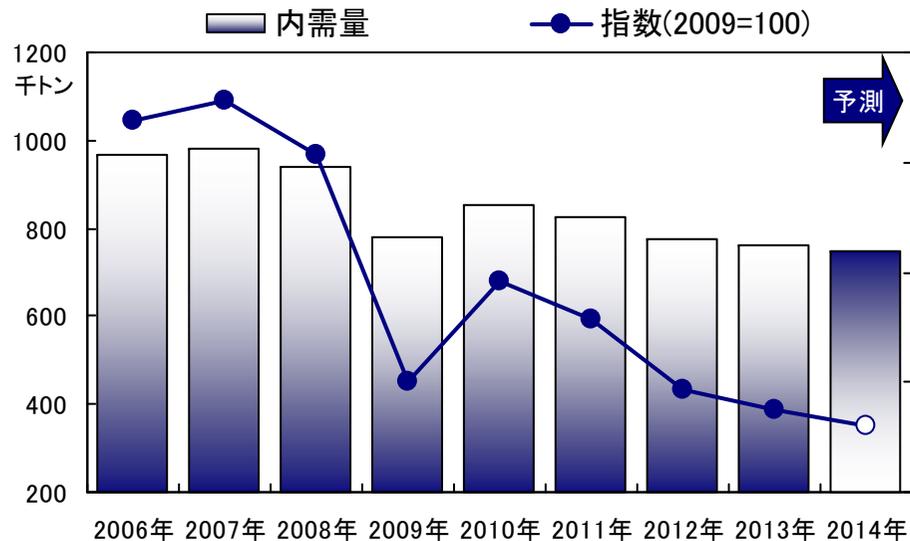
### 「2014年予測」

☆全体として、消費増税の影響は、年間で均せば軽微と予想。品種別では、PPC用紙は、汎用性・利便性が高く、他品種から(ノーカーボン紙等)からのシフトもあるため、微増程度は期待できる。一方、フォーム用紙については、デザインフォームでDM向け等は底堅い需要が期待できるものの、電子化、カット紙化の進展等により、全体として減少継続が予想される。複写原紙も、帳票類の減少(単票化、ペーパーレス化)により、不振が続く見通し。情報記録紙については、物流分野での感熱紙ラベル等、堅調な分野もあるが、電子化等の影響もあり、全体として増加は期待できない。

☆以上を勘案し、情報用紙の内需は前年に対し0.4%の減少と予測した。



## (5) 包装用紙



### 「近年の動向」

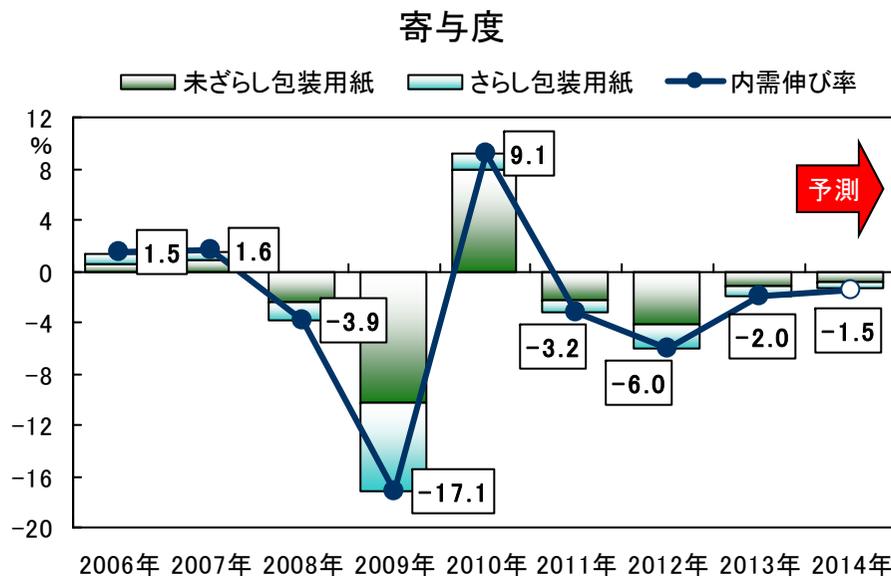
★内需は、リーマンショック後の2010年の反動以降、前年割れが続いている。2013年も前年比2.0%減で3年連続の減少となった。省包装の流れに加え、上質紙やコート紙、ポリ等他部材へのシフトが進んだことが大きな要因と見られる。また、さらしから未ざらしという包装用紙内でのシフトもあり、近年は未ざらし包装紙よりもさらしの内需落ち込みが大きい。2006年比では、未ざらしが18.7%減に対し、さらしは25.7%減となっている。

### 「2014年予測」

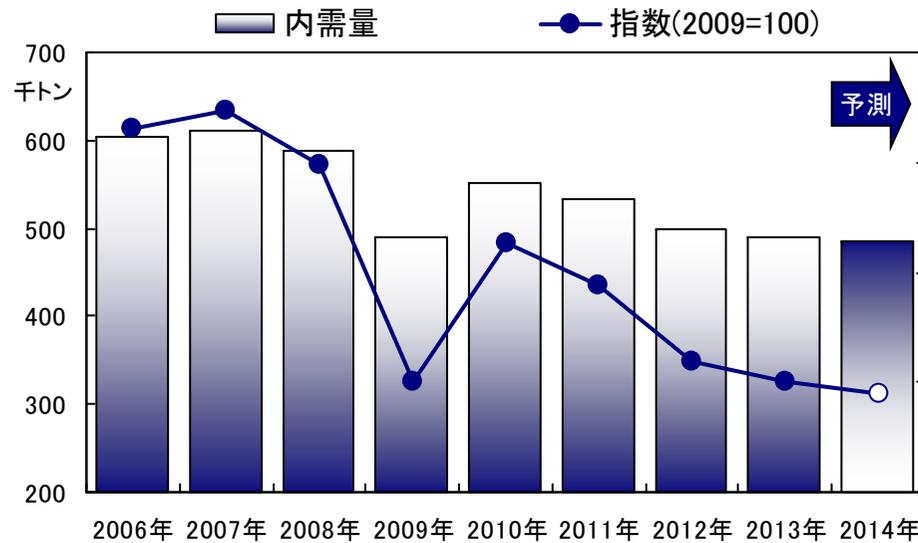
☆消費増税の影響については、増税前の駆け込み需要と増税後の反動は予想されるものの、年間を通しては影響は軽微なものに止まると予想する。  
 ☆企業のコスト削減や環境に配慮した省包装の流れは続いている。上質紙・コート紙やポリ等への部材変更による需要減も継続すると見られ、内需減少は避けられないと判断した。

☆包装用紙について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は75万トン、前年に対し1.5%の減少となり、4年連続のマイナスとなる。

☆詳細については当該品種頁参照。



## (5) - ① 未ざらし包装用紙



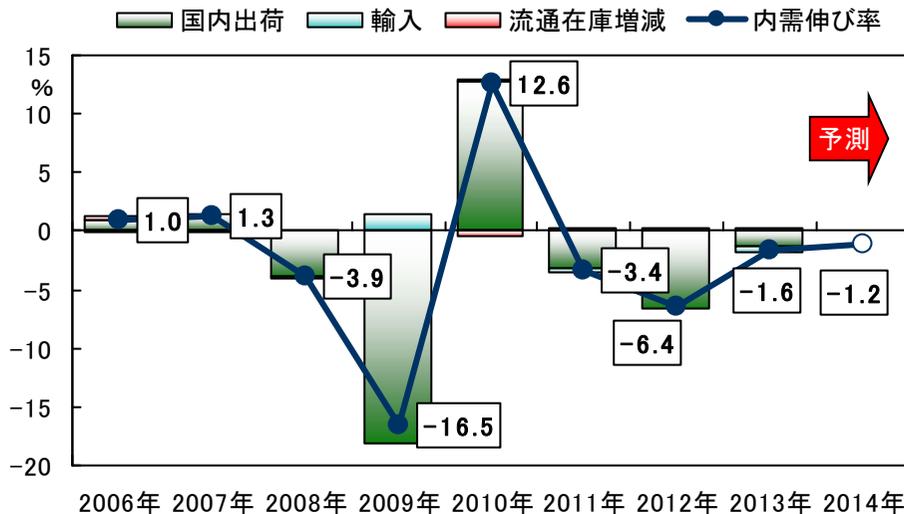
### 「近年の動向」

★2011年以降、下落幅の大小はあるものの需要の減少は続いている。さらに比べ、未ざらし包装紙は需要の落ち込みが比較的小さかったが、2013年は2009年の水準を下回った。

### 「2014年予測」

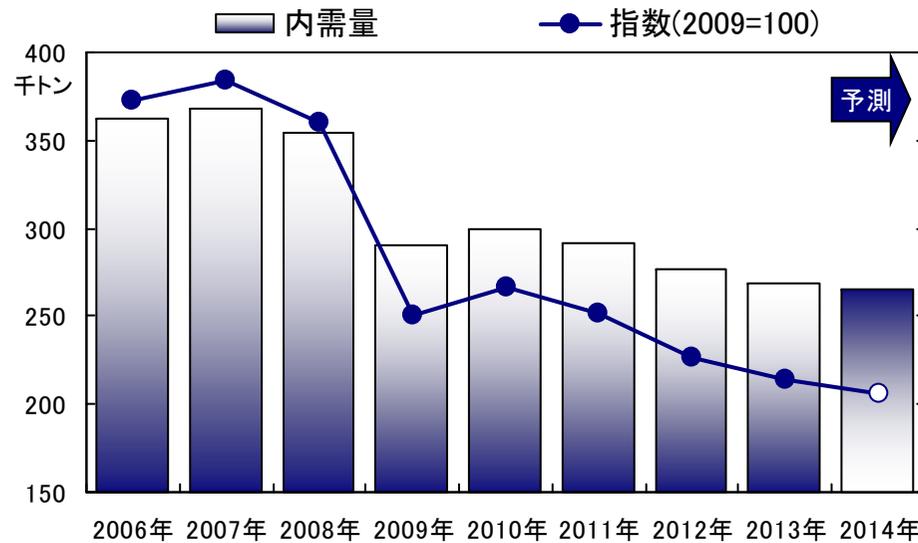
☆品種別にみると、重袋用両更クラフト紙では、①セメント向けは増加が見込まれる、②米麦・製粉向けは横ばいもしくは微減、③化学薬品・合成樹脂向けはややマイナスを予想。以上から、需要は前年比微減を見込んだ。その他両更クラフト紙については角底、手提袋需要は全体として底堅いものが見込まれるが、封筒用途で圧着ハガキ化やウェブ化(電子化)の影響を受けることが予想されマイナスを見込んだ。

### 寄与度



☆以上を勘案し、未ざらし包装用紙の内需は前年に対し1.2%の減少と予測した。

## (5) – ② さらし包装用紙



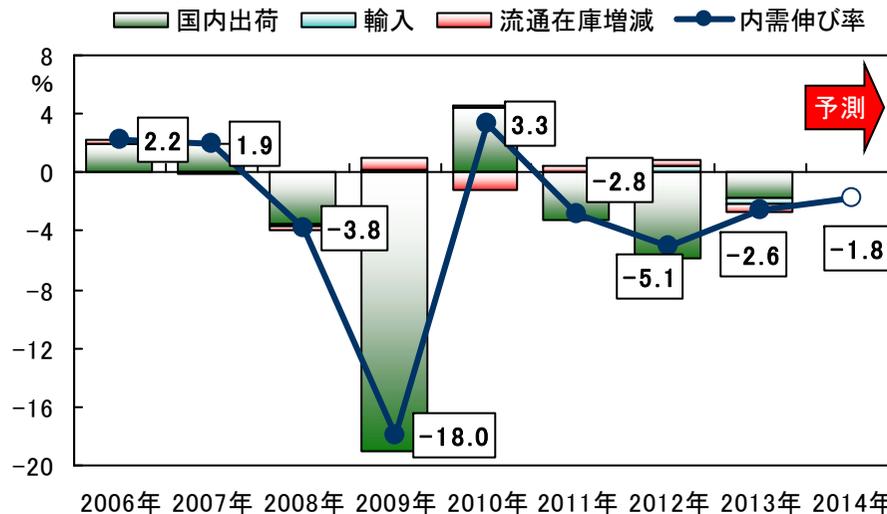
### 「近年の動向」

★ 2013年の内需は27万トンで前年比2.6%減と、3年連続の減少となった。さらし包装用紙は、樹脂系部材への変更に加え、さらしから未ざらしという包装用紙内でのシフトもあり近年は未ざらし包装紙よりも内需の落ち込みが大きい。

### 「2014年予測」

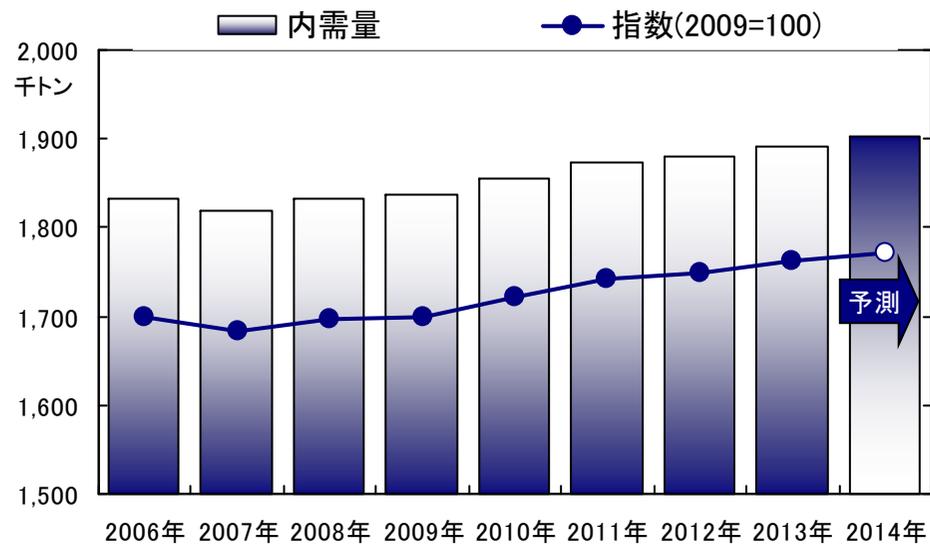
☆ 品種別にみると、さらしクラフト紙では、両更さらし、片艶さらし共に、食品・薬品向けの包装用途は安定しており、需要は横ばいが予想される。袋用途に関しては、百貨店等の売上好調により、高級手提向けは増加を予想。しかし袋のサイズダウン、低米坪化等は続くものと見られる。純白ロールは包装・加工用途が食品・薬品向けは横ばいも、その他用途で他品種への部材変更が進むと予想され減少を見込む。

### 寄与度



☆ 以上を勘案し、さらし包装用紙の内需は前年に対し1.8%の減少と予測した。

## (6) 衛生用紙



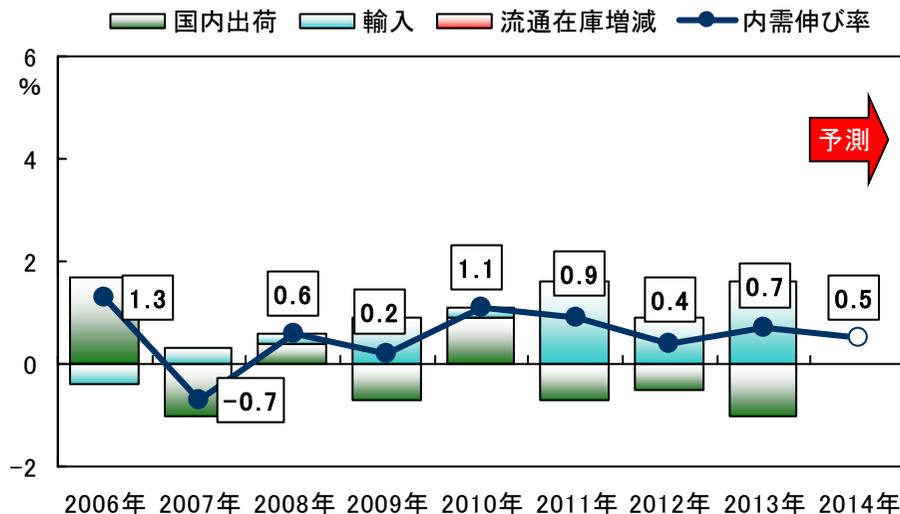
### 「近年の動向」

★衛生用紙の内需は、2008年以降は微増で推移しておりプラス基調にある。リーマン・ショック後の景気低迷時(2009年)においても微増であり、人口減少等の構造的マイナス要因はあるものの、生活必需品として底堅く推移している。2013年もプラスを維持し、6年連続の増加となった。サプライ別には、国内出荷は3年連続の減少、輸入は製品輸入を中心に大幅に増加し、7年連続で前年を上回った。

### 「2014年予測」

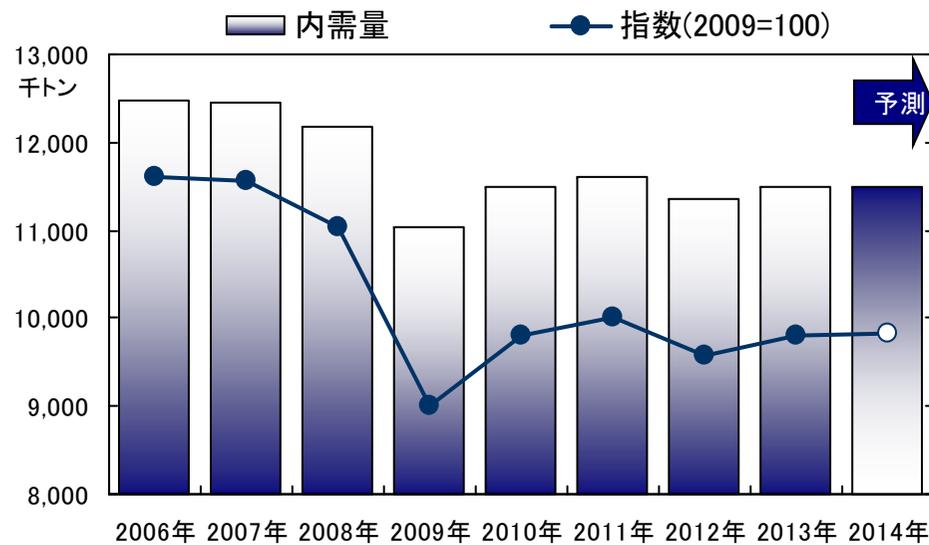
☆衛生用紙は、人口減少や消費増税による節約志向といったマイナス要因はあるが、生活必需品としての底堅さに加え、世帯数の増加等による需要増も期待でき、微増を予想する。品種別にみると、ティッシュペーパーは、花粉飛散数の減少予測もあるが影響は軽微とみられ、高付加価値商品の需要増が見込めることなどから増加。トイレtpーパーは、訪日外国人の増加予測等もあり業務用需要の増加を見込む。タオル用紙については予防衛生意識の定着、節電対策による需要等により微増を予測する。

### 寄与度



☆以上を勘案し、衛生用紙の内需は前年に対し0.5%の増加と予測した。

# (7) 板紙合計

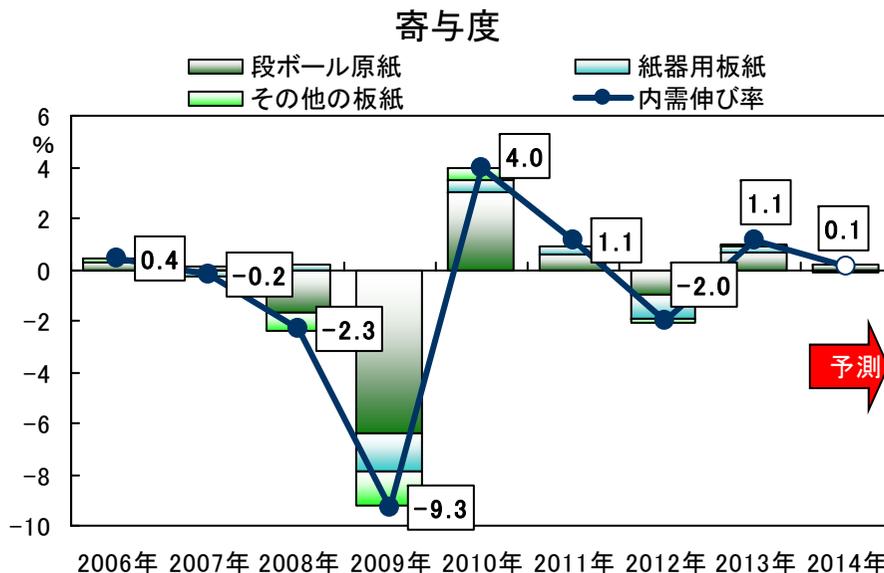


## 「近年の動向」

★板紙の内需は、リーマン・ショック後の2009年に大きく減少した。2010年は前年の大幅減の反動増もあり4年ぶりに増加、2011年は大震災後の被災地支援等がプラスに寄与し、2年連続で前年を上回った。2012年は輸出関連需要の減少や前年の大震災による特需の影響から再びマイナスとなったが、2013年は加工食品や飲料向けを中心に増加し前年を上回った。

## 「2014年予測」

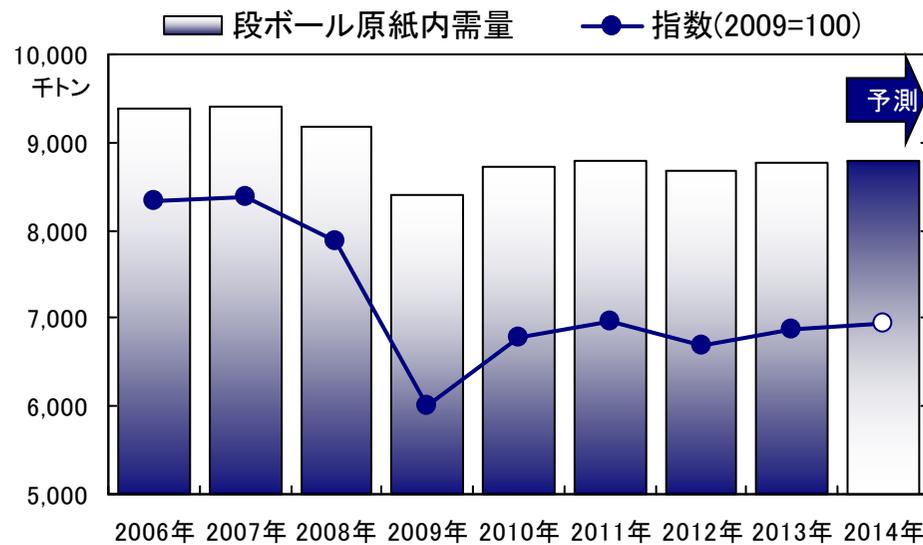
☆主要品種について、主力の段ボール原紙は0.3%増、他方、紙器用板紙は0.5%減(うち白板紙は0.5%減)とマイナスを予測する。



☆板紙合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は1,150万トン、前年に対して0.1%増、約1万トンの増加となる。過去の実績値と比較すると、リーマン・ショック後では、2009年(1,105万トン)に対し104.1%、約45万トンの増加となる。

☆品種別寄与度について、段ボール原紙は0.2pt増、紙器用板紙は0.1pt減、その他の板紙が0.0pt減と主力の段ボール原紙がプラスに牽引する。

## (8) 段ボール原紙①



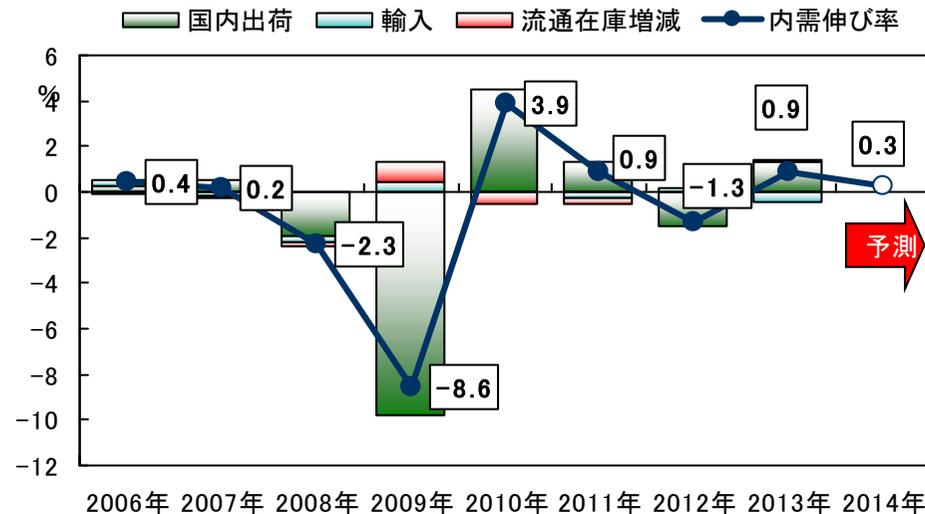
### 「近年の動向」

★段ボール原紙の内需は2009年に経済状況の悪化から大幅なマイナスとなった。2010年は前年の落ち込みの反動等から3年ぶりのプラスに転じたが、前々年(2008年)をかなり下回る水準に止まった。2011年は大震災の特需もあり2年連続のプラスとなったが、2012年は電気・機械器具向けの不振等から前年を下回った。2013年は堅調な食品需要や猛暑を背景とした飲料向けの増加から2年ぶりのプラスとなった。

### 「2014年予測」

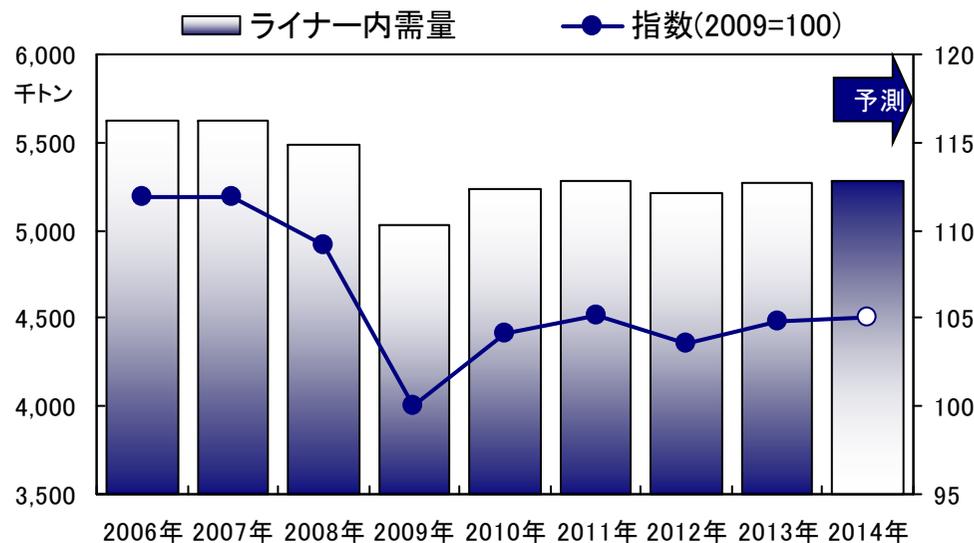
☆全国段ボール工業組合連合会(全段連)の需要予測によれば、段ボールシートの生産は1.0%増とプラスを見通している。主要分野では、電気・機械器具向けは消費増税後の反動からマイナスを予想しているが、過半を占める加工食品等の食品向けは夏場の飲料需要や中食市場の拡大等からプラスと見ている。段ボール原紙については、これらの需要動向を参考に、近年の原紙の軽量化を加味し、微増ではあるが、前年を上回ると予想する。

### 寄与度



☆以上を勘案し、段ボール原紙の内需は前年に対し0.3%の増加(ライナー0.3%増、中芯原紙0.3%増)と予測した。

## (8) 段ボール原紙②

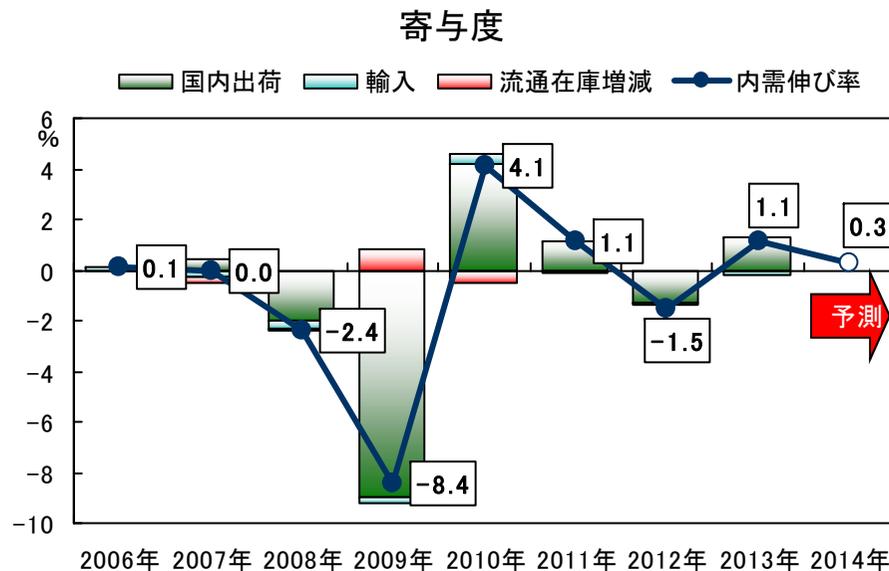


### 「2014年予測:分野別の需要動向」

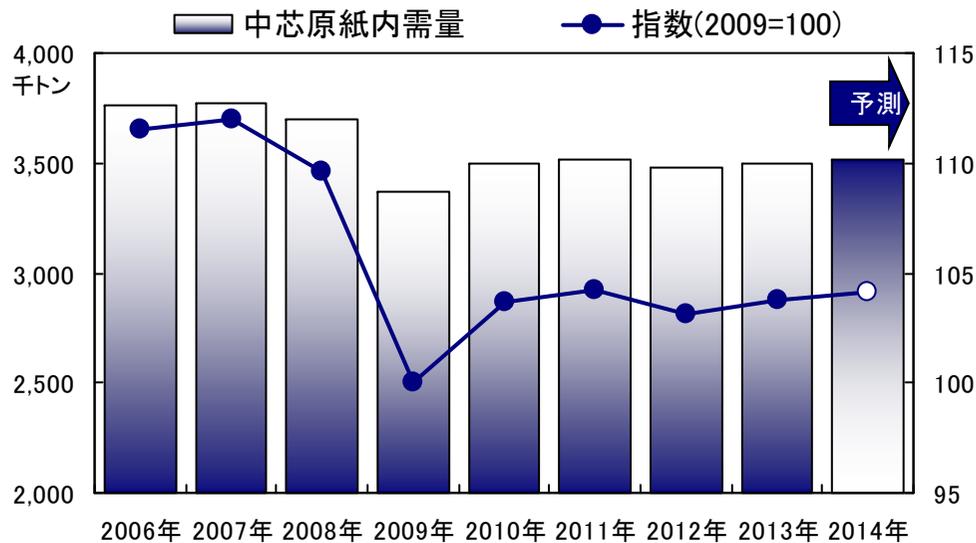
☆加工食品向け(2013年1-10月需要部門別構成比:41.5%)は、内食化の定着や中食市場の拡大を背景にレトルト食品や冷凍食品等は堅調と見られ、菓子分野ではビスケットやスナック菓子を中心に増加が予想される。飲料関係では、ビール類は、「新ジャンル」が低価格志向を背景に増加が見込まれるが、「ビール」及び「発泡酒」は引き続き減少すると見られ、ビール類全体では前年を下回ることが予想される。清涼飲料は、炭酸飲料や茶系飲料は増加が期待され、ミネラルウォーターも堅調と見られることから、全体では増加が予想される。

☆青果物向け(構成比:11.5%)は、天候に左右される面があるが、作付面積の減少傾向はあるものの内食化の定着、ギフト需要の増加等も見込まれ、前年並みが予想される。

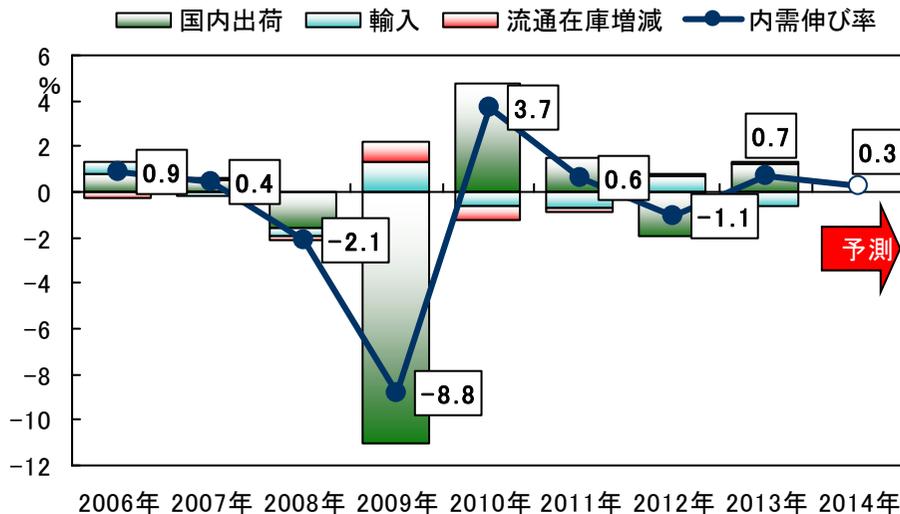
☆電気器具・機械器具向け(構成比:7.8%)は、復興需要の恩恵が引き続き予想され、また円安等による輸出増や国内生産の回帰も一部で見られる。一方、消費増税後の反動や買い控えも懸念されることから減少が予想される。



## (8) 段ボール原紙—③



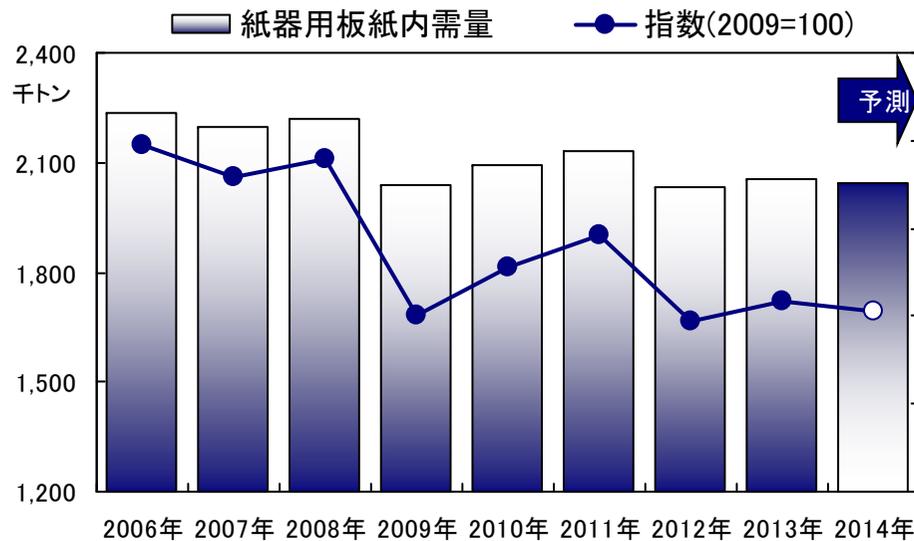
### 寄与度



### 「2014年予測:分野別の需要動向」

- ☆薬品・洗剤・化粧品向け(構成比:6.0%)は、ジェネリック医薬品の増加や新国民病「ロコモ(運動器症候群)」の予防関連市場の拡大、また大手ドラッグストアの出店増等もあり、増加が予想される。
- ☆陶磁器・ガラス製品・雑貨向け(構成比:5.6%)は、復興需要の恩恵は期待されるが、住宅需要の減少や消費者の買い控えにより、前年を下回ることが予想される。
- ☆通販・宅配向け(構成比:3.9%)は、ネット通販を中心に市場が拡大していることや、スマートフォンの普及や高齢化社会も追い風となり、増加が予想される。
- ☆繊維製品向け(構成比:2.2%)は、輸入品の増加や消費者の買い控えは懸念されるが、円安等を背景に百貨店や大手アパレルで衣料品の国産回帰が見られ、また節電意識の高まりからウォームビズを中心に需要が期待されることから、前年並みが予想される。

## (9) 紙器用板紙—①



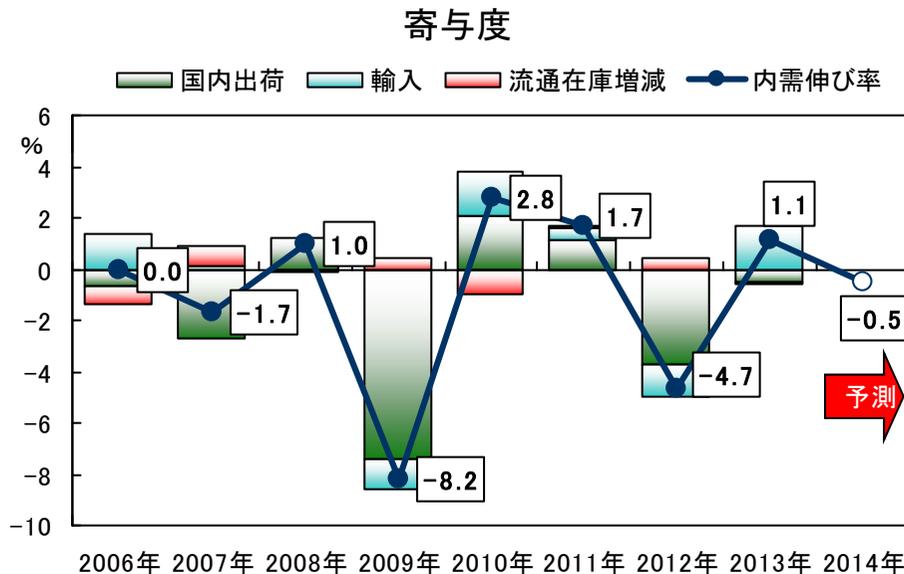
### 「近年の動向」

★紙器用板紙の内需は2009年に経済状況の悪化から大幅に下落した。2010年は弱いながらも前年の落ち込みの反動等からプラスに転じ、2011年は大震災後の支援物資需要もあり2年連続で前年を上回った。2012年は前年の大震災による特需反動から3年ぶりのマイナスとなったが、2013年は堅調な食品関連需要に医薬向けの増加等もあり前年を上回った。

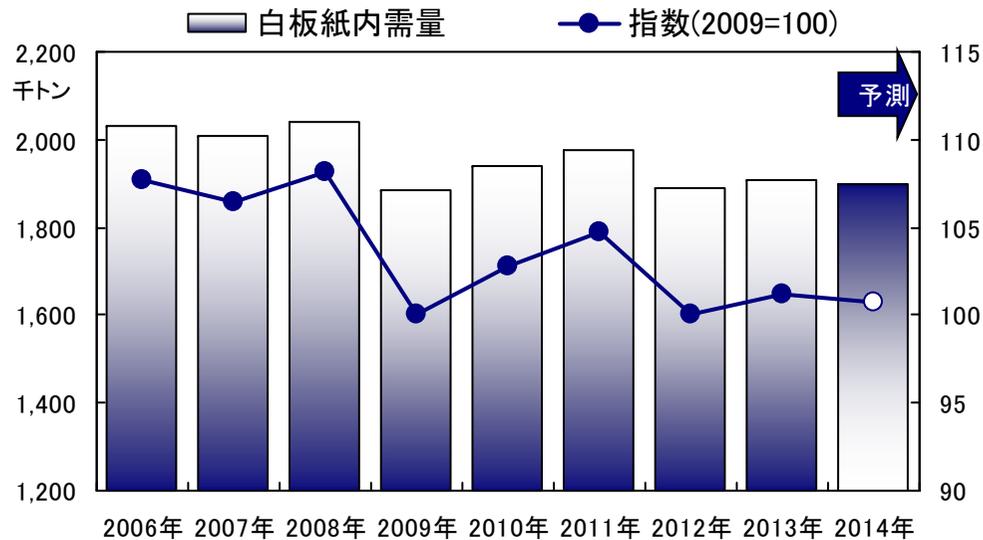
### 「2014年予測」

☆需要家のコスト意識の高まりから、箱の小型化等のコスト削減の動きは強まると予想され、近年著しい菓子分野での軟包装化も引続き懸念される。また一部需要先であるトレーディングカードや出版向けも電子媒体への移行等により減少が見込まれ、前年を下回ると予想される。

☆以上を勘案し、紙器用板紙の内需は前年に対し0.5%の減少(白板紙0.5%減、黄・チップ・色板紙0.6%減)と予測した。



## (9) 紙器用板紙—②



### 「2014年予測:分野別の需要動向」

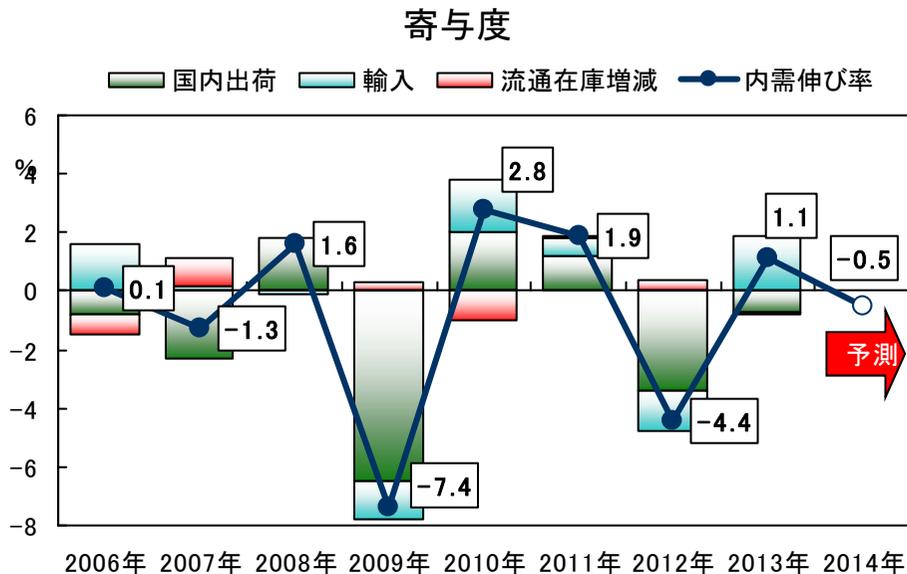
☆食品向けは、低価格志向や節約志向が依然根強いことから内食化は継続すると見られる。その中で、レトルト食品は簡便性や低価格志向からカレー類を中心に堅調と見られる。また近年拡大しているコンビニの食品向けは、大手コンビニを中心に新規出店数の増加が見込まれるため、引き続きプラスが予想される。菓子関係は、ビスケットを中心に新商品の発売が予想されるが、大袋商品といった軟包装の利用増や規格変更による箱の小型化も懸念され、増加は期待できない。全体では前年並みまたは微減と予想される。

☆医薬・化粧・日用品向けは、ジェネリック医薬品の増加や新国民病「ロコモ(運動器症候群)」の予防関連市場の拡大、漢方薬分野の増加が予想され、また内食化継続によりラップ需要も堅調と見られる。更に大手ドラッグストアや調剤薬局の出店増もプラスに寄与し、増加が予想される。

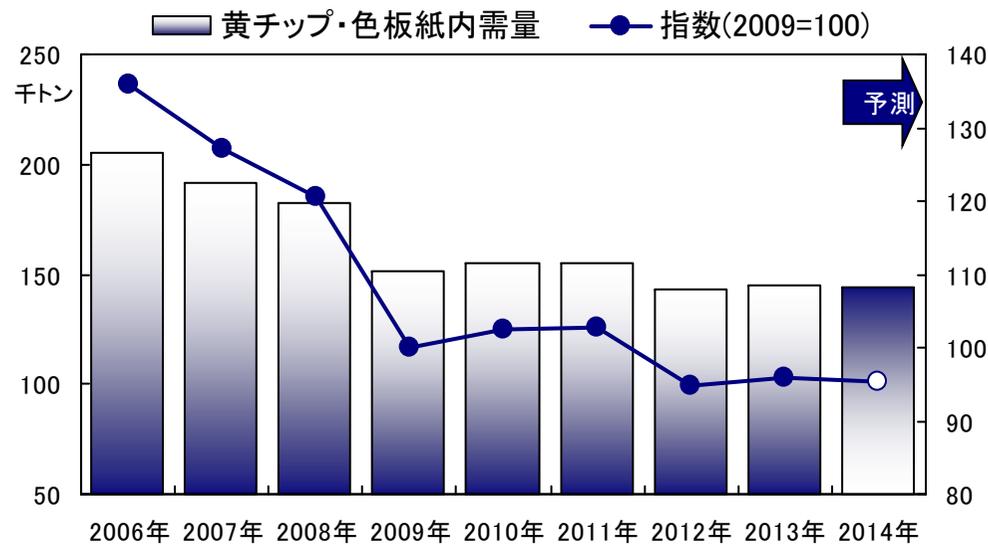
☆洗剤向けは、消費者の節約志向に、粉末から液体へのシフトもあり、微減と予想される。

☆ティッシュ向けは、消費者の節約志向はあるが、生活必需品としての需要は底堅く、また消費増税前の駆け込み需要による家庭内在庫の増加はプラスに寄与すると見られ、前年を上回ることが予想される。

(次頁に続く)



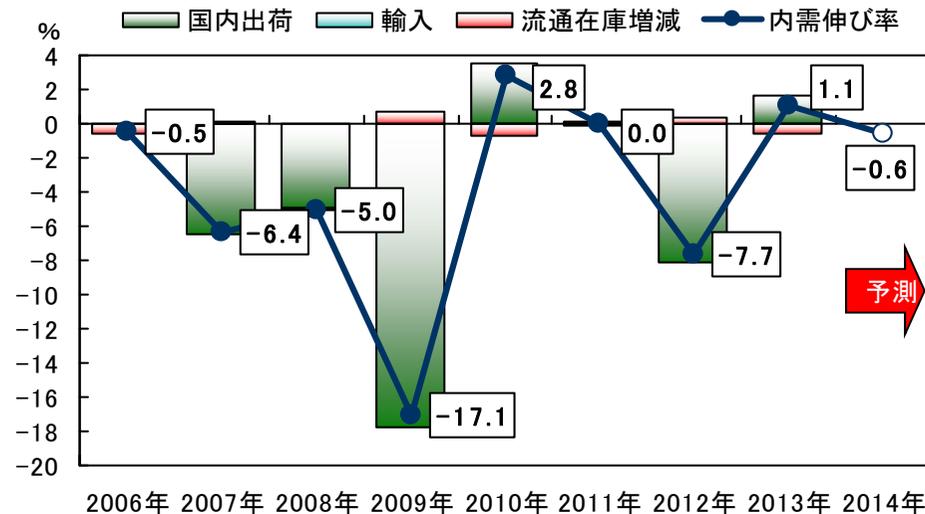
## (9) 紙器用板紙—③



### 「2014年予測:分野別の需要動向」

- ☆商業印刷向けは、店頭販促品であるPOPは消費増税前後の需要喚起で増加が期待されるが、トレーディングカードはデジタル媒体への移行等により前年を下回ると見られ、全体では前年並みと予想される。
- ☆出版印刷向けは、人口減、活字離れ、電子書籍等の影響で定期刊行物の休廃刊や発行部数の減少が懸念され、前年を下回ることが予想される。
- ☆文具事務用品向けは、少子化や電子化の浸透を背景に、ファイル類の減少傾向は引き続き予想される。

### 寄与度



### Ⅲ. 2013年紙・板紙内需実績見込み

(単位:ト、%)

品 種	国内出荷		輸 入		計		流通在庫増減	内 需 計		13年連合会 内需予測 (B)	伸び率誤差 (A)-(B)	
		前年比		前年比		前年比			前年比(A)			
紙	新聞用紙	3,203,919	98.2	41,001	96.9	3,244,920	98.2	0	3,244,920	98.2	98.7	▲ 0.5
	非塗工印刷用紙	2,138,670	102.4	179,666	76.1	2,318,336	99.7	19,036	2,299,300	97.8	96.3	1.5
	塗工印刷用紙	4,720,808	105.7	702,644	71.9	5,423,452	99.6	6,433	5,417,019	98.9	97.1	1.8
	情報用紙	1,301,000	98.8	532,739	99.8	1,833,739	99.1	▲ 931	1,834,670	99.2	98.9	0.3
	印刷・情報用紙計	8,160,478	103.7	1,415,049	81.0	9,575,527	99.5	24,538	9,550,989	98.7	97.2	1.5
	未ざらし包装紙	481,451	98.6	8,701	76.5	490,152	98.1	▲ 1,156	491,308	98.4	97.0	1.4
	ざらし包装紙	267,756	98.2	1,650	62.5	269,406	97.8	▲ 79	269,485	97.4	96.8	0.6
	包装用紙計	749,207	98.5	10,351	73.9	759,558	98.0	▲ 1,235	760,793	98.0	97.0	1.0
	衛生用紙	1,751,229	99.0	141,251	127.6	1,892,480	100.7	0	1,892,480	100.7	100.0	0.7
	雑種紙	704,304	97.3	19,178	95.7	723,482	97.3	0	723,482	97.3	98.5	▲ 1.2
紙 計	14,569,137	101.3	1,626,830	84.1	16,195,967	99.2	23,303	16,172,664	98.7	97.9	0.8	
板紙	ライナー	5,194,888	101.3	67,472	84.6	5,262,360	101.1	▲ 1,818	5,264,178	101.1	99.5	1.6
	中しん原紙	3,472,830	101.2	27,213	57.7	3,500,043	100.6	▲ 1,055	3,501,098	100.7	99.5	1.2
	段ボール原紙計	8,667,718	101.3	94,685	74.6	8,762,403	100.9	▲ 2,873	8,765,276	100.9	99.5	1.4
	白板紙	1,425,515	99.1	481,095	107.9	1,906,610	101.2	▲ 1,621	1,908,231	101.1	99.4	1.7
	黄チップ・色板	145,136	101.7	0	-	145,136	101.7	248	144,888	101.1	98.0	3.1
	紙器用板紙	1,570,651	99.3	481,095	107.9	2,051,746	101.2	▲ 1,373	2,053,119	101.1	99.3	1.8
	その他の板紙	655,943	102.8	11,682	84.7	667,625	102.5	5	667,620	102.5	98.5	4.0
	板紙計	10,894,312	101.1	587,462	100.1	11,481,774	101.0	▲ 4,241	11,486,015	101.1	99.4	1.7
紙・板紙計	25,463,449	101.2	2,214,292	87.8	27,677,741	100.0	19,062	27,658,679	99.7	98.5	1.2	

注) 1) 国内出荷: 雑種紙は塗工印刷用原紙を除く。

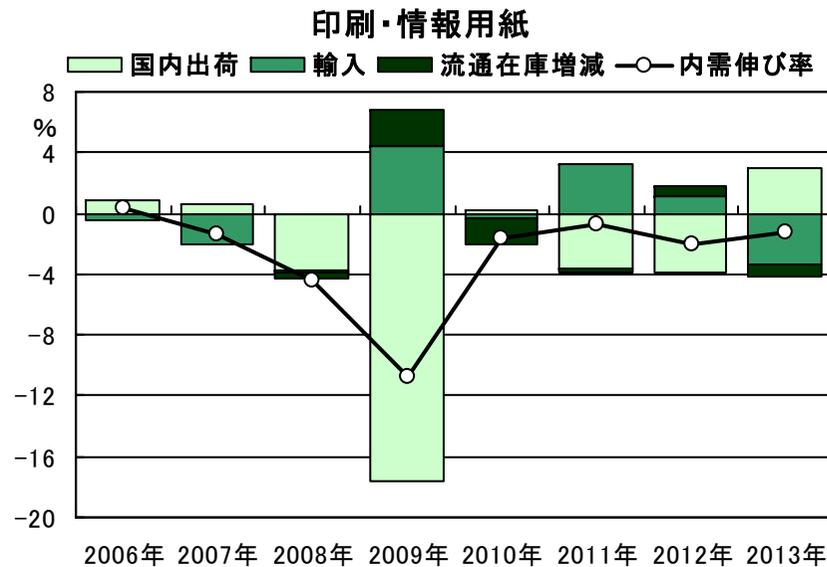
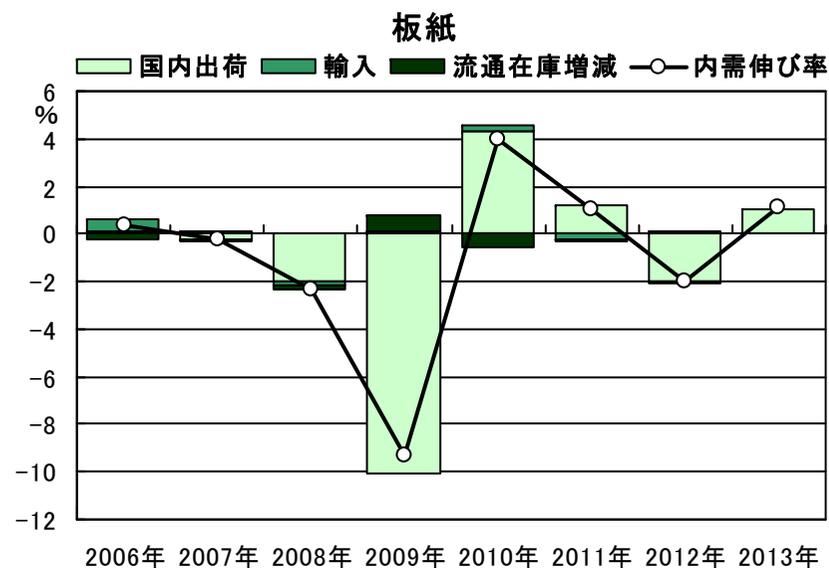
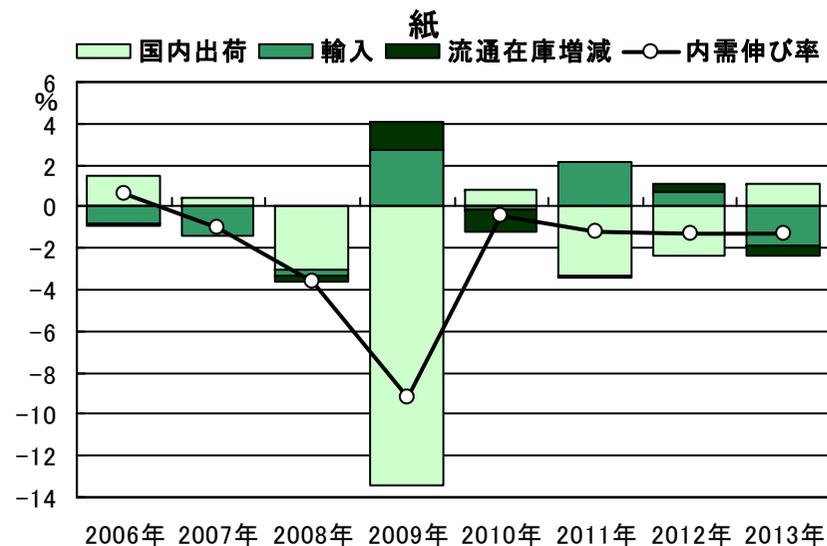
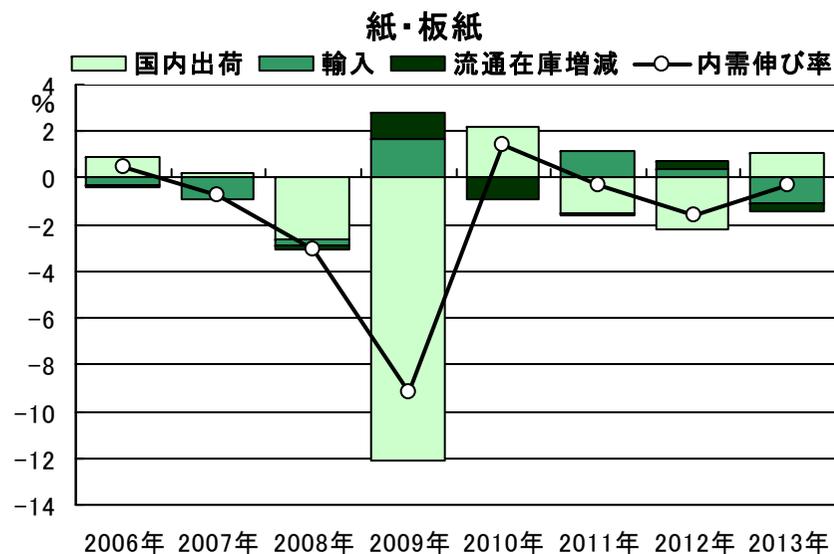
2) 輸入: 新聞用紙は日本製紙連合会並びに日本新聞協会調べ。通関との差し引き分は非塗工印刷用紙に計上した。

重袋用クラフト紙は全量を未ざらし包装紙に計上した。

衛生用紙は製品輸入を含む。

白板紙はミルクカートン用紙を含む。

# IV. 参考① サプライ別内需寄与度の推移



## 参考②

### 内需の定義について

「内需」は、国内出荷に輸入を加えた上で、流通在庫の増減分を加味して算出している。なお、輸入には、「原紙需給に大きく影響するとみられる紙製品及び原紙に類似した紙製品」として、ティシュペーパー、トイレットペーパー及びミルクカートン用紙(ポリエチレンラミネートしたもの)を含めている。

$$\text{内需量} = \text{国内出荷量} + \text{輸入量} + \text{流通在庫量の前年比増減量}$$

### 予測の仕方について

内需量は主要品種別に、ユーザー、流通、製紙企業それぞれの担当者へのヒアリングによる積み上げを基に試算しているが、一部品種については回帰分析等統計的な手法も使用している。

雑種紙及びその他の板紙の予測については、この2品種を除く紙・板紙合計の伸び率を使用している。  
なお、予測値及び見込み数値等は2013年12月27日時点で得られた情報を基に作成した。